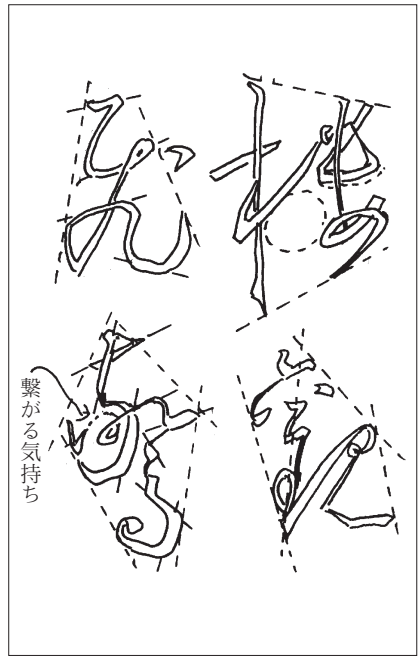


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

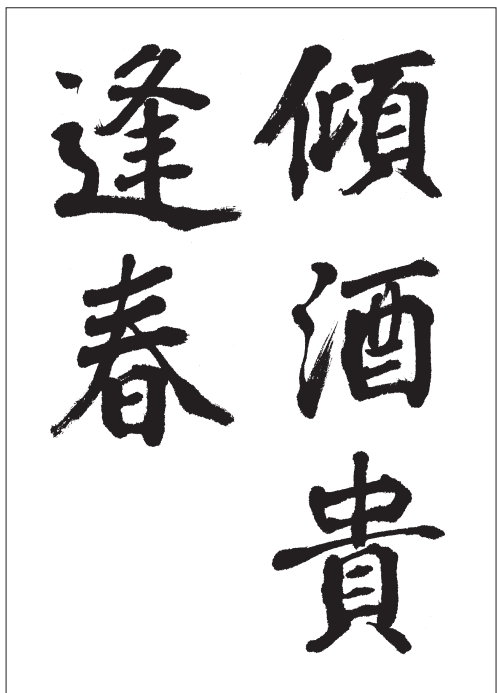


草書千字文・唐 懷素

- 1、字句||樓觀飛驚
- 2、形式||半紙タテ使用、右に「樓觀」、左に「飛驚」と臨書し、左余白に「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観||懷素の代表作は自叙帖と千字文ですが、自叙帖は若書きで、自由奔放に書かれた作。それに比べて千字文は平静に淡々と書かれた作で、自叙帖とは大きく異なります。  
「懷素千字文」は、若い頃夢中に書いた覚えがあります。今回、臨書部で取りあげることになり、久し振りに書いて見ましたが、昔見えなかったところが見えるようになりました。概観でも指摘したとおり、筆線においては細線・揺筆・太線、形においては簡素な形・変化に富む形と多彩な表現を感じることが出来ました。それと同時に改めて難しくも感じました。  
臨書部では今月が最後となりますが、学べば学ぶ程益すること大だと思えます。引き続き取り組まれたい。
- 4、各字のポイント  
樓 木偏を背高くし、偏と旁の間を広くとり、旁の縦画は左に寄せ、広くとり過ぎないという絶妙な構成。  
觀 偏は左下に傾斜し不安定な形にし、旁の終画を右に出しバランスを取る。  
飛 四本の横画の方向を微妙に変え、斜画は速筆による。  
驚 上部は右上がりの横画、「馬」は右下への動き。点線部分繋がる気持ちで。

昇試第三部 (漢字・かな) 予告 (三月二十二日締切)

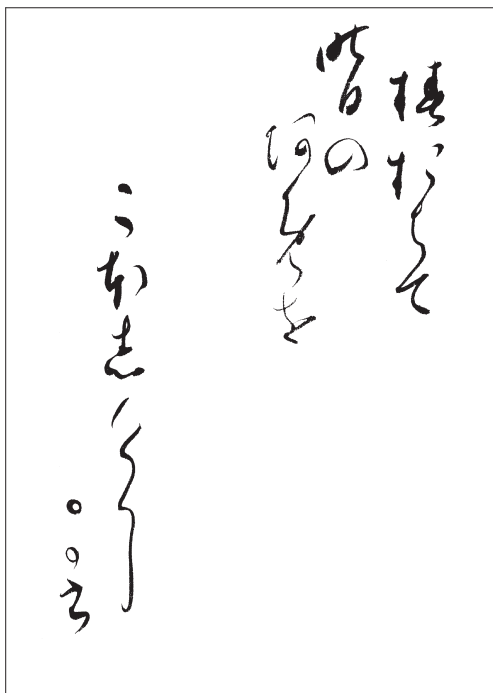
平岡華雪先生書 酒を傾くるは春に逢うを貴ぶ(宋之問)

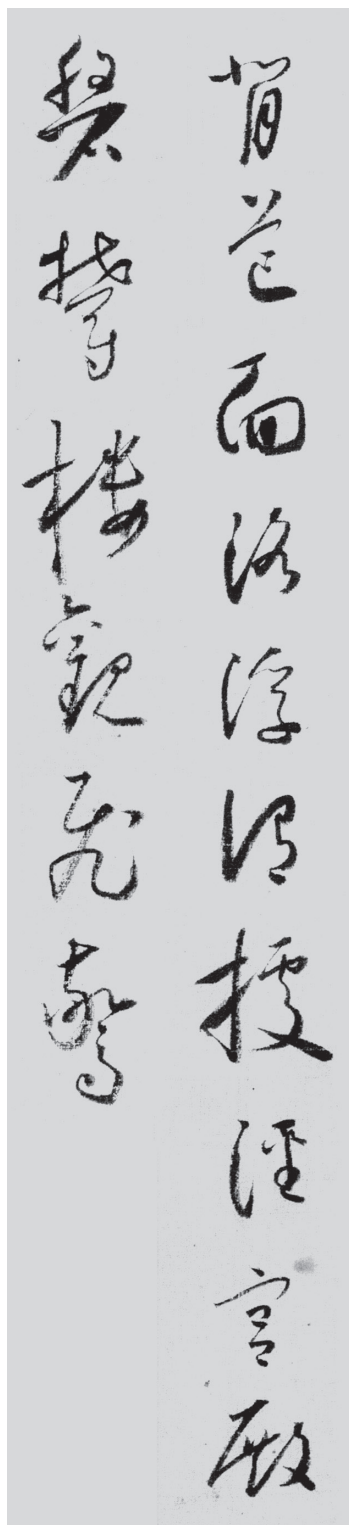


訳：酒を傾けるのは春の頃が一番よい。

平岡華雪先生書

つばさおちてきのふあめ 椿落て昨日の雨をこぼしけり(蕪村)





背芒二面洛。浮渭拋涇。宮殿磐鬱。樓觀飛驚。  
芒を背に洛に面し、渭に浮かび涇に抛る。宮殿磐鬱とし、樓觀飛驚す。  
洛陽は北芒山を背にして洛水に向かい、長安は渭水の流れのほとりにあって涇水がひかえる。東西両京の宮殿は壮麗で幾重にも重なり、高樓は飛んでいるかのようにで人を驚かす。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。随意部半紙は無料。  
条幅部は一枚目無料、二枚目から五五〇円。  
バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「(臨)」と表示されます。

## 一字書（二月二十二日締切）

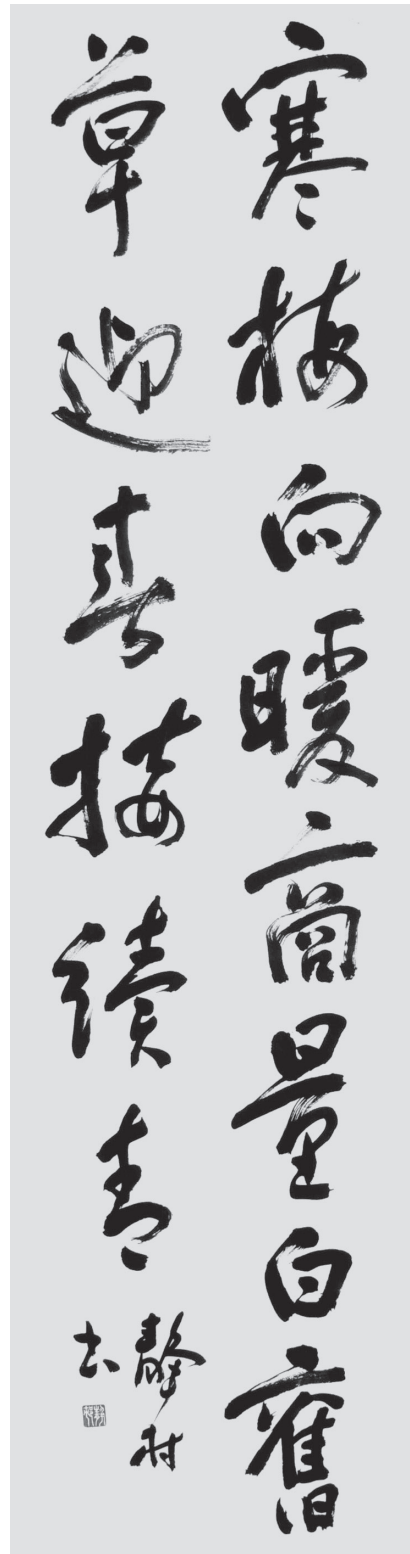
### 課題

# 歌

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

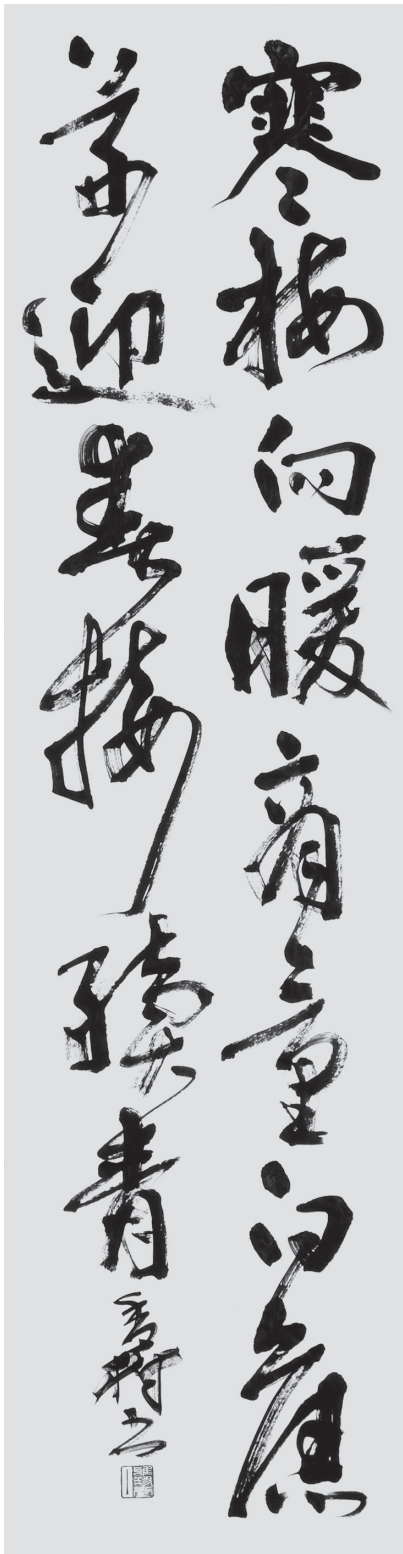
A 鈴木静村先生書

寒梅向暖商量白 舊草迎春接續青 (唐伯虎)  
寒梅暖に向かつて商量して白く、旧草春を迎え接続して青し。



B 高橋香樹会长書

向一、二、三画接筆注意。暖 旁筆順注意。商 長横画清代に多い。量 墨継ぎ、たっぷり。白 画の接筆注目。舊 書体多い、字典参照。迎 之繞ポイント。接 墨継ぎ。續 草体字典から正しく。特に草書体を使うときは、必ず「字典」を参考に、誤字にならぬように。



「梅」と「接」は草書にすると旁は同じような崩しとなるので、「接」の終画を伸ばすことにより変化を。「向」と「白」も草書によると同じような形となるので注意したい。連綿線は二字連綿を四ヶ所で使用しているが、なるべく短くなるようにした。墨継ぎは「白」と「春」。

訳：寒中の梅は暖気に向かつて白く咲くのをはかり考えて、去年の草は今年の春に逢って、ひき続き青く萌えている。

予告 昇試第一部漢字 (三月二十二日締切)

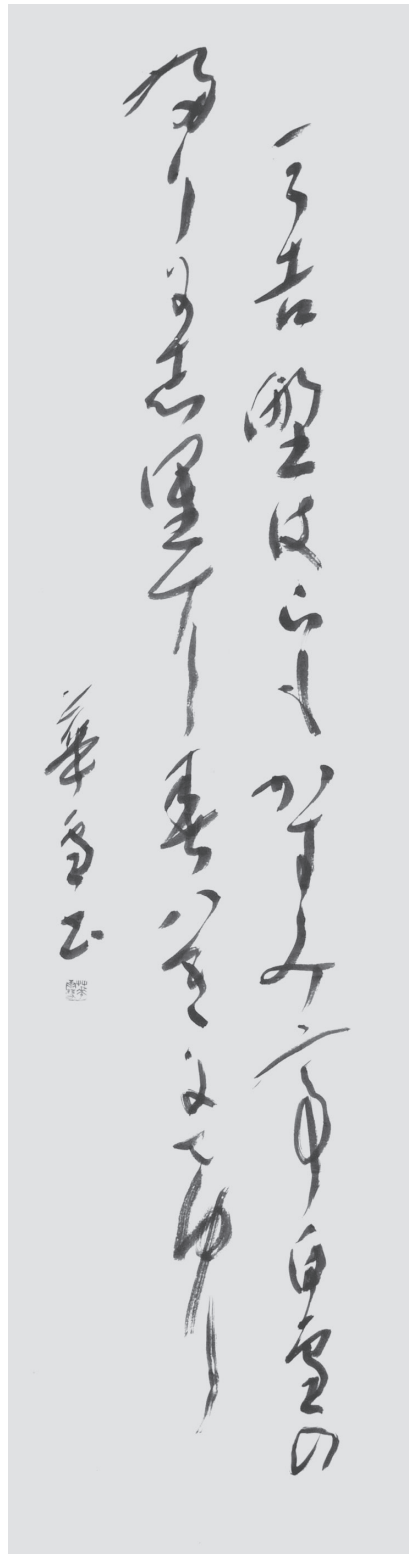
野店桃花紅粉姿

陌頭楊柳綠煙絲 (趙孟頫)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A  
平岡華雪先生書

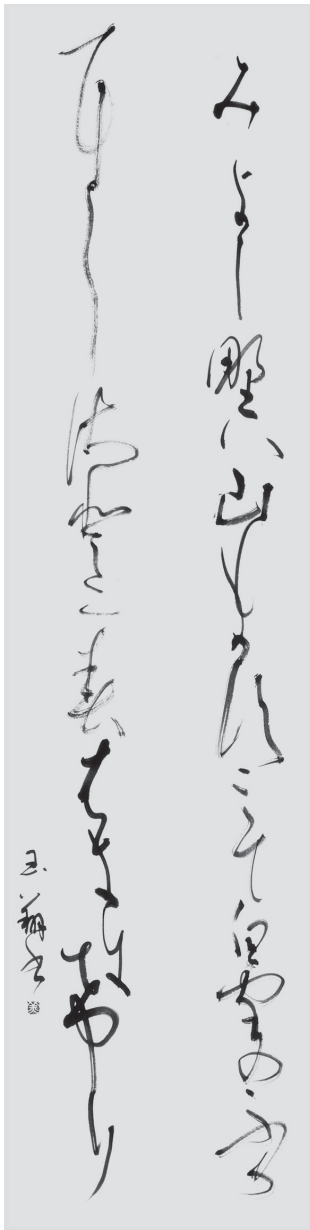
み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春はきにけり (新古今和歌集 撰政太政大臣)  
三吉野は山もかすみ亭白雪の婦り尔志里耳春八き尔希り



B

福田玉翔先生書

みよし野八山も可須三て白雪のふ利耳し佐登二春者支尔希り



撰政太政大臣  
藤原良経

(一一六九〜一二〇六年)

鎌倉初期の公卿・歌人・書家。九条兼実の子。撰政・従一位太政大臣となり、後京極殿と称される。歌を俊成に学び、定家の後援者でもあった。書では後京極流の祖と言われる。

学び方

今月も半切二行書きの後半を、少しずらして三行にまとめました。使用する変体仮名や漢字はご自分の好みで選択すれば良いのですが、同じ文字が重複しないように配慮する必要があります。墨継ぎはいつも通り二行目後半で一回にしました。

奈良県吉野山の春の桜は、わが国最大の桜の名所です。近鉄吉野線の終点吉野からロープウェイで三分吉野山入り口に到着します。その辺りの桜を下千本といい、中千本、上千本と吉野山を登っていくと奥千本と呼ばれる所に西行庵があります。私は数年前に小倉百人一首にある歌枕三十三カ所を回り、和歌に詠まれている名所旧跡を訪ねました。吉野山も桜の時期に行き、吉野の桜を詠んだ和歌は多いので、一度実際に見てみると作品を書く時にも脳裏に浮かんで楽しめます。

予告 昇試第一部かな (三月二十二日締切)

うるはしき春野を過ぎてさわらびの萌ゆる山邊の藤浪をみつ (尾山篤二郎)

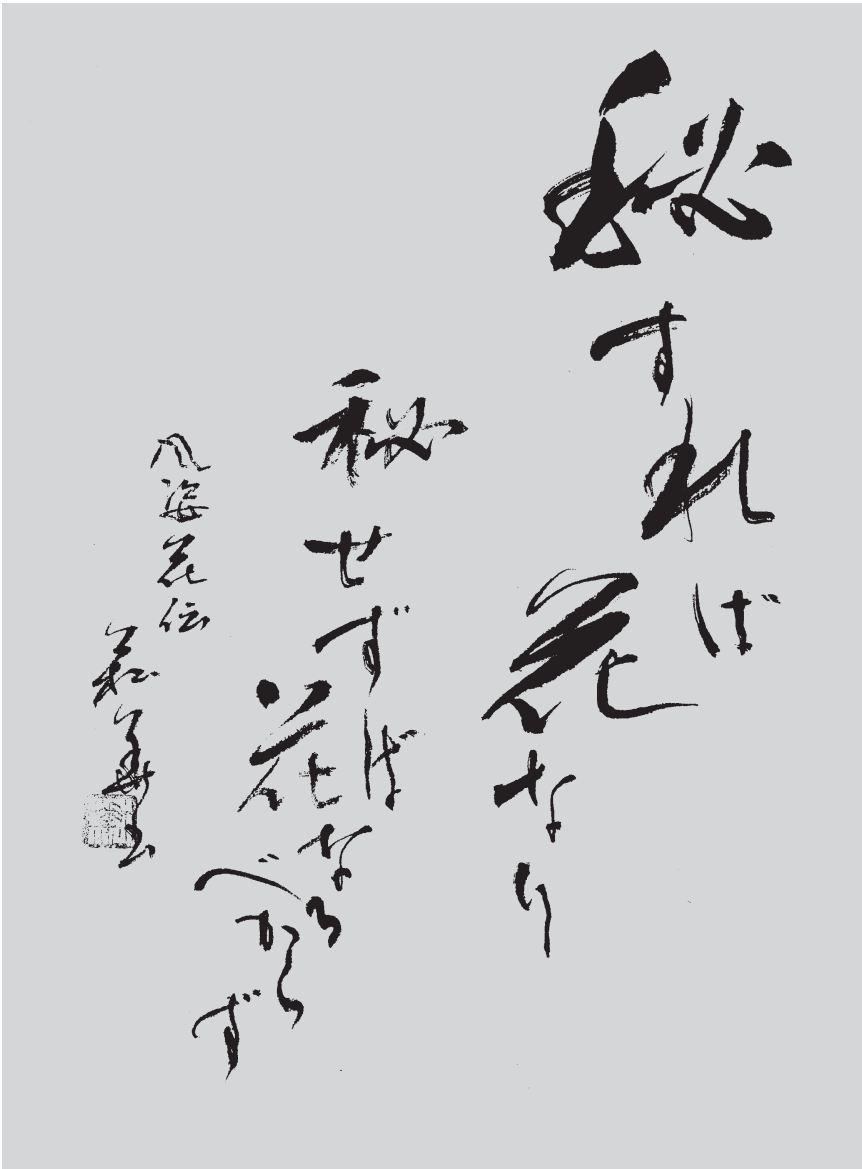
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

小暮 菘華 先生 書

秘すれば花なり  
秘せずば花なるべからず

『風姿花伝』 世阿弥

- ・ はじめの文字群、充分墨を含ませ、大きく書き出す。「秘」は太細はつきりと、余白を取り、次の文字群へ。墨つきはせず、字をやや小さく自然なかすれを。
- ・ 筆は兼毫の中筆を用いました。



世阿弥(一三六三〜一四四三とされるが正確には未詳)実名、観世三郎之清。今日の能の基礎を確立した観阿弥の一子。父より能役者としての英才教育を受ける。能、「高砂」「井筒」「西行桜」の作者。「風姿花伝」をはじめとする二十一に及ぶ能芸論書の著作者。「風姿花伝」はその普遍的価値により、海外でも多く訳されている。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

文物多く古を師とす(杜甫)  
訳：文化にかかわるものは古い時代を手本とする。

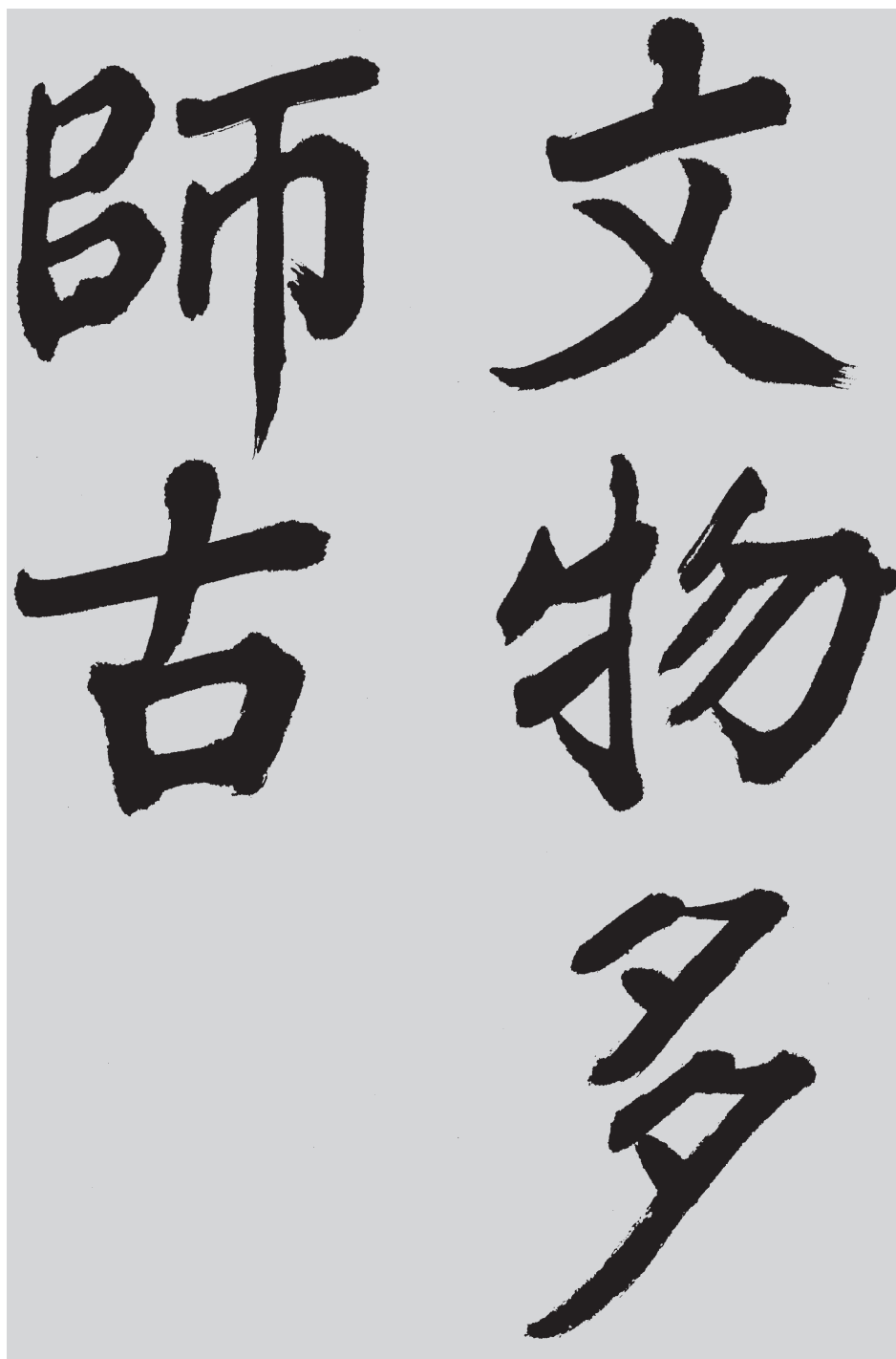
〈各字のポイントの部分〉

一字の中心となる部分はピシッと。

「文」二つの左右の払いで決まる。「物」旁の「勿」、特に二画目。

「多」「夕」の二画目、と字の中心。「師」末画のタテ画、これが勝

負。「古」二画目強く、「口」は締めて。



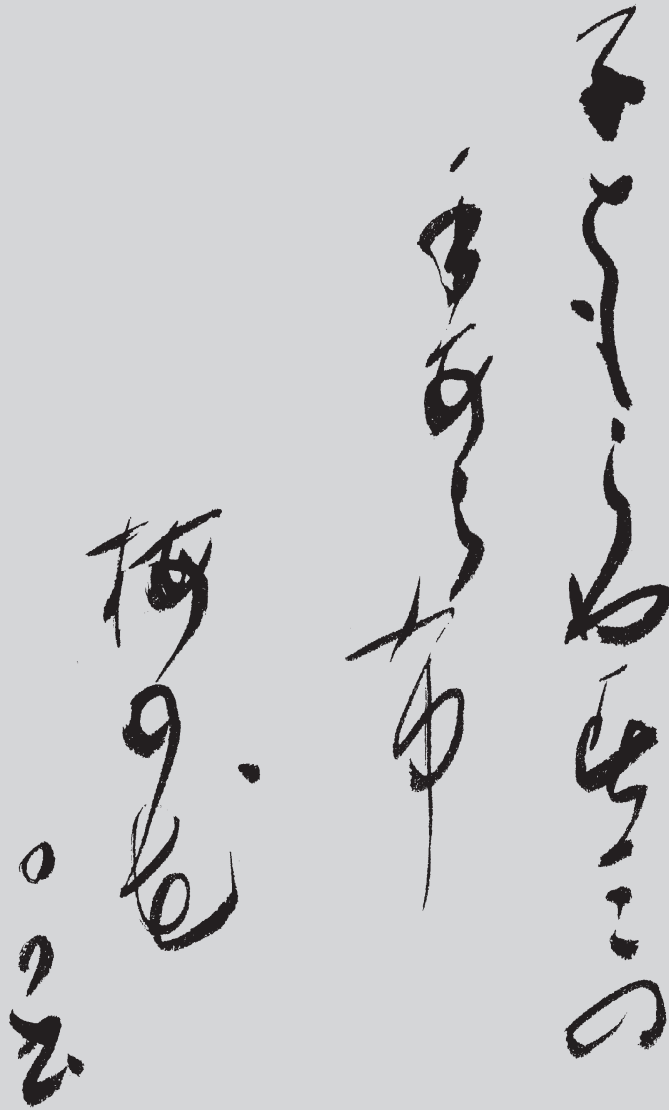
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

こどもらや墨の手あらふ梅の花 (犀屋)  
子ともらや春三の手あらふ梅の花

〈まずは二字連綿で自信を〉  
連綿は「とも、らや、春三、あら、の花」の二字連綿。華雪先生独自の表出は「布」の寄せである。これだけの大きさをどう調和、融合させるか。みなさんの腕の試し所。「の花」の長い連綿線、活きのよい線に挑んで貰いたい。



予告 昇試第二部かな (三月二十二日締切)

わがそのに梅の花ちる久方の天より雪の流れ来るかも (万葉集)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位) に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

内藤香瑶先生書

奇文共欣賞（陶淵明）  
奇文は共に欣賞し、

訳：おもしろい文章があれば、ともに鑑賞し、

奇文共欣賞  
奇文共欣賞  
奇文共欣賞

香瑶書



予告 昇試第二部漢字（三月二十二日締切）

樂與數晨夕（陶淵明）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

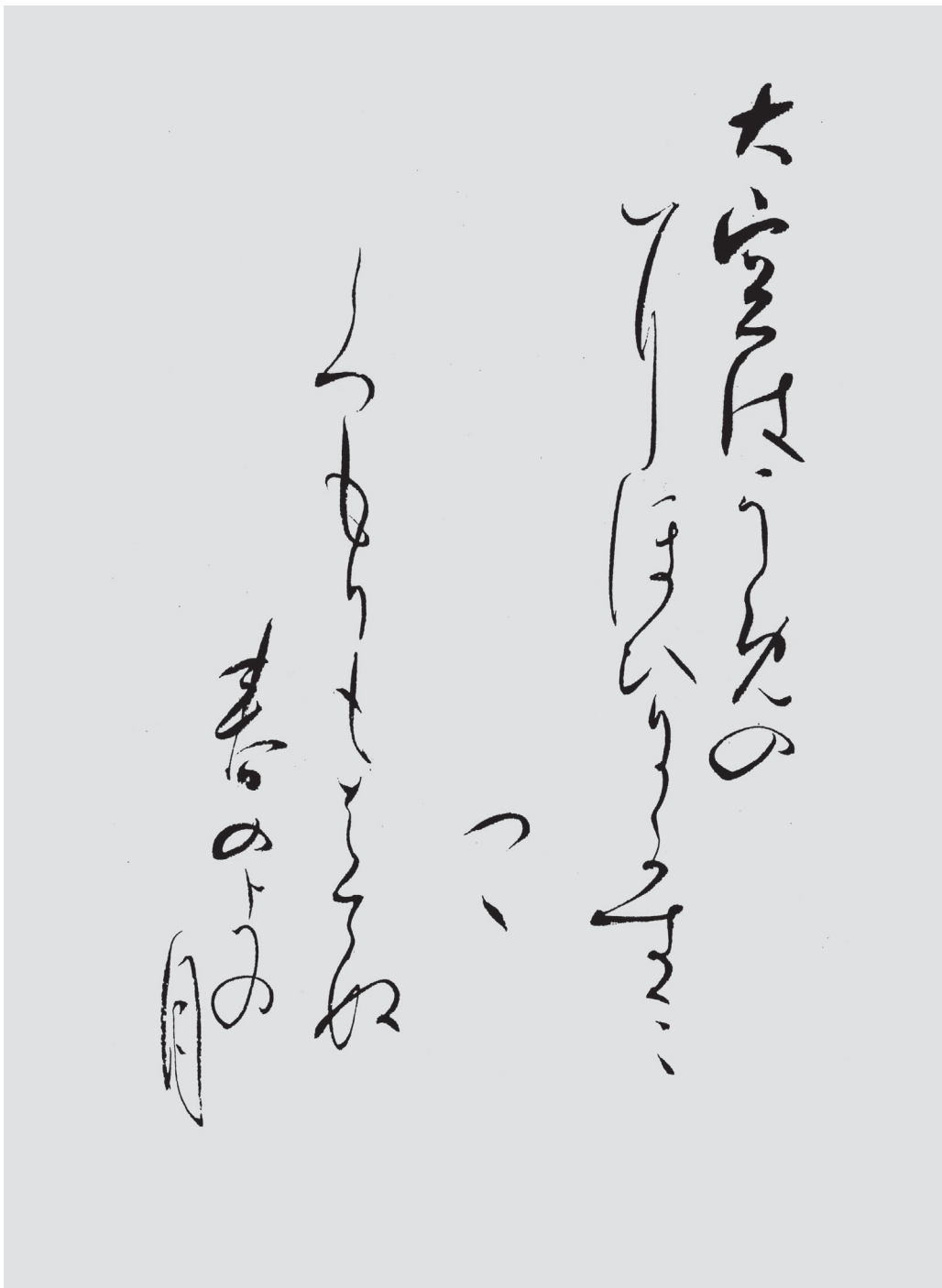


随 意 部 参 考

高塚竹堂先生書

おほぞら  
大空は梅のにはひにかすみつゝ曇りも果てぬ春の夜の月（新古今和歌集）  
大空はう免の耳ほひ尔可す三つゝ久もりも者てぬ春のよの月

藤原定家朝臣



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

